

特
18
13/4
1



門 卷13
種 1314
珠 1-4

相
泉
善
列
浦
賀

同
川
田
香

鳩觀雜話序

行程百二十余里驛路六十
亭。行由多とて在少の閑
中。月軒の法は、おの四里の
度大なる大名屋敷を、
改し、その子規の詩を

造
壙
序

鳴し。園十郎が鼻。ささやき。し。た
よめい。火下る。北。日。梅。あ。の
忌日。ま。り。し。し。の。い。女中。お。は
代。糸。音。意。の。八。羽。う。り。と。り。物。の。
大。通。の。あ。る。ぬ。存。造。の。家。多。の。の。い。
狂。糸。砂。と。大。の。娘。ん。ま。や。家。の。の。ら。
終。突。の。あ。る。茶。店。巧。蘭。院。の。ま。向。

6
侯。を。置。き。し。の。と。地。女。乃。ま。い。あ。は
四。十。七。土。の。石。碑。の。ま。い。ま。の。の。い
深。川。深。川。新。音。意。の。お。流。し。
今。の。の。海。岸。中。茶。本。山。の。ご。と。く
園。中。お。と。く。ま。の。院。の。母。の。交。易。
ま。の。の。大。通。の。仕。行。の。終。井。の
越。川。の。終。目。を。終。る。の。煙。草。の。め。し。

壱
壱
壱

意傳が極印を改め。袖の袴下
に痛むをさす。さるる中。若くは月に
つれづれに解。不傷願をとりて。
類は流行を解も。江をくみひが
話があらう。あらう。子。諸。成。さ。つ。く。
この。その。序。よ。こ。ら。は。あ。ん。や。
持。あ。ん。さ。ら。あ。ん。さ。ら。あ。ん。

虫の終身人

あ。ん。さ。ら。

寛政七

卯のとも

眼鏡めがねをして見候し、ア親父おやぢもさう人さへ
 らまきやがよよで、ト自分おれはよこめ川がわの
 水の親父おやぢもさひは川がわつよもやあつくまの
 熱あつをまきまいといと下げ知ちぬ放はなは南みなみ川がわつと
 ぬき河がわをまきまいといといひ親父おやぢもさう縁えんは
 さよろ川がわくぬ松まつさしものあまをさうも
 よいさありあるとまきりよ川がわつよてころに
 いひとらと鼻はなまうら京みやこ武ぶ遠とほ月つき鏡かがみ鏡かがみ
 見て丸まるれびりのるよまき松まつがまの薄うす子こを

遠とほ大とほ文ぶんをよて何なにやら来てあをまき
 うらむせぎうかく松まつがたけ者もの
 屋やがて身み代しろ志しがけむ潔せと志し純じゆん
 と鼻はなのころらさうらぬらぬをや
 十じゆ階かいやう二階にかいより遠とほ眼鏡めがねよてうか
 びせの字あざは見えく新あたら極たぎ子こも眼めは
 くらぬものとも色いろけ親父おやぢもさう岡おかは
 交まじり再また酒さけを飲のみを飲のみの熱あつを
 小こまきりよをより又また夕ゆふ暮ぐれ及およぶいさ

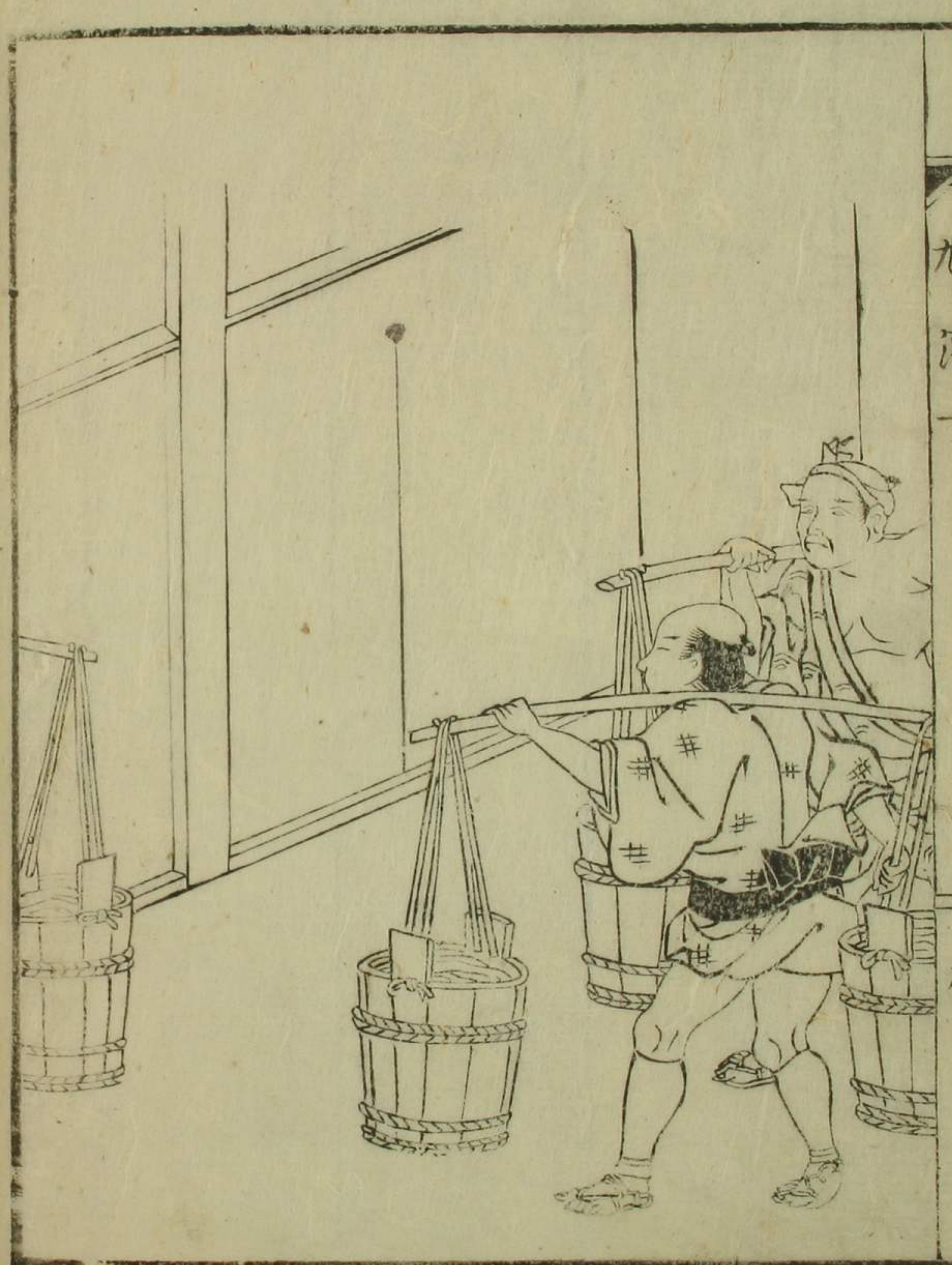


か目あつてそそめく 春もよめてふごころ
ませぬ又そよ治橋のここのるも迎春
茶吞とそがやあしましてせるでよ
とやまのゆへかきそく春でんあし
中らごめやうなふごころまのた縁
さうけあつてごころまのた縁
イヤ是の井堰の玉あてごころますよ
川下の玉川一落ましてふ流るそよ
まのた日本のおれをよの玉あうと存

まのた松も大染吞てんぬあもごころ
せぬが孔や醒が井のあごころ大堰川
まらごころる布川や春老のあし
流や春羽のこるれを富士の雪解の中
がのれる勝の流あいらまぬるそよ
播のも井のたごころ出羽の雪よる肥
後の求摩まごころ春あまごころあても
井堰がらちよいろと存まのたあ月の
怪がよろかまのたが樹ごころあ

たゞうさぎをせぬ閑居よしてせせく
へて見るがらうらうらごさうまのこころ
ゆへに平も肝城はがしこやうたう
あまの玉あで風居城あてささねまの
あしりつばさやうでごさうまの風居中
でいごさうまをせぬ平生の手はあうらう
つとま城をせぬまのるも卯のあてさ
ころふごさうまのと世界をト春う
ごあゆのゆきうらよ一平もまけぬ動て

イヤ 形もけちるよ柔を寝まのらが本
乃後一筋は城をよまへ一ませうと存
まのといふ先折くイヤ本津の筋口
も口中があれまのらや川をる玉あが
ふふごさうまの何しうち川と持て
よませうらと湯のせうらあの本末
てさうとらあといあやとと柔うら
親父よるうらとととととととととと
そととととととととととととととと



の宿^{しゆく}付^{つけ}とら^らい^い今^{いま}官^{くわん}あ^あら^らや^やを^を部^ぶ
右^{みぎ}の^のう^うろ^ろ糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}
上^{うへ}の^の糸^{いと}と^とま^まし^しこ^こお^お物^{もの}束^{たば}の^のう^うら^ら成^{なり}

戸^と成^{なり}叩^{たた}く^く内^{うち}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}
右^{みぎ}の^のう^うら^ら成^{なり}

トヤチチ妻のうら糸がまじりてお物束
の糸とり子を家内もあきらめられしは
結搦子あてとこよほふよいらぬもの
とほがやく内退く三層のあまき
こめば糸壺めら桶小桶大釜うらあぐ
釜きらむんうら糸風長まじりあじく
とあぢりけもあまやとあぢらうら又
表紙中うら内うらとあぢり今又あぢ
トヤチチ妻のうらお物束の糸とあぢ

左家内いだいよこぬり具形よあぢあぢえ
とてとまむきど一平いよのあぢり
よいらう一こめりあぢとあぢり
まじりあけさせくぬらぬらうら
あぢりこめば家内い持あぢりいんどねを
糸よふとあぢりあぢり又表紙中うら
とあぢり今又あぢりやち糸あぢり
糸がまじりてお物束の糸とあぢり
まんどろあけぢりもあぢりあぢり

志きいさしもの一平もきいさあつら
とらんくうめく一毒が来くこし
とびえんきつうおろりりきととととと

○捕牙道人曰近世撰南今宮より直島は這時

人あり高行奇蹟著く人口ふ贈灸する處

戲よ是候ふ目せば黄葉の庭よてうれを

をよるふ



鳩灌雑話一

